



◆女子結果

準決勝 広島大 3 (25-11、24-26、25-14、
25-19) 1 京都橘大

前日、東海学連1部1位の愛知学院大に勝利した京都橘大と2年ぶりの決勝戦進出を目指す広島大との一戦。速いトス回しでレフト松野を中心に攻撃し、リズムに乗ろうとする広島大に対し、京都橘大は粘り強いレシーブからのコンビバレーでセンター高橋を軸に得点を重ねる。しかし終盤、京都橘大は広島大の攻撃に太刀打ちできずにセットカウント3-1で終わった。

準決勝 鹿屋体大 3 (25-17、25-19、25-17)

0 長崎国際大

第1セット序盤、粘りあるレシーブとキレのあるブロックで長崎国際大が鹿屋体大に差をつけ、タイムアウトへと追い込む。しかし鹿屋体大が高い攻撃力を持ち味に反撃し逆転。第2セットも鹿屋体大は2年生エース川辺にボールを集めて連取。第3セット、長崎国際大はリズムをつかんで立て直したいところであつたが、鹿屋体大は攻めの姿勢を続け、決勝へと駒を進めた。

決勝戦 鹿屋体大 3 (25-18、25-20、21-25、
18-25、15-9) 2 広島大

両チームとも粘りのあるバレーを展開し、相手からの強力な攻撃にも、速攻など多彩な攻撃

で攻め返す。鹿屋体大の特徴は何と言つても体育大学らしいパワフルなバレーである。しかし、広島大も高さのあるブロックで相手からの攻撃を阻止し、ひけを取らない試合展開を見せる。試合はフルセットまで持ち込まれた。

両者あとがない最終セット。他セット以上に熱戦が繰り広げられたが、マッチポイントを先取したのは鹿屋体大。最後は鹿屋体大の力強い攻撃で終了し、西日本の頂点に立った。

★鹿屋体大・濱田幸二監督

「ティフェンスは全国に通じるもののが少し見えてきた。8月のリーグでは東と張り合えるよう頑張ります」

★鹿屋体大・佐藤繪美主将

「最後まであきらめず、持ち味のレシーブを生かせた。西日本で勝ったのも通過点。次の課題を見つけて全日本インカレでの優勝を目指します」

★広島大・橋原孝博監督

「過去の反省を生かして、今年は選手全員が体制を整えて試合をすることができました。準優勝は2回しているので、三度目の正直で今回は優勝したかったのですが、：次回に持ち越しです」

★広島大・小川諒子主将

「11人という少ない人数ですが、この大会でチームが一つにまとまつたと思います。この悔しさを忘れずこれからも頑張ります」